

埋蔵文化財センターの活用事例の紹介

埋蔵文化財センター

発掘調査・整理作業現場や遺物の活用

埋蔵文化財センターでは、「本物」を活用した郷土教育を推進するために小中学生等を対象に遺跡見学や発掘体験を実施しています。また、当センターで実施している整理作業を見学、体験することができます。加えて、授業等で活用するために本物の土器や石器などの遺物を貸し出しています。（まいぶんキット貸出事業）

■ 高熊山激戦地跡での遺跡見学

（県立大口高等学校）

5月29日（水）に、県立大口高等学校の3年生3名が高熊山激戦地跡（伊佐市大口）で、遺跡見学を行いました。高熊山激戦地跡は、西南戦争で薩軍と官軍が激戦を繰り広げた場所です。ここに残されている薩軍の堡塁跡（塹壕）や、遺物として出土した銃弾を見て、教科書で学んだ歴史が身近な地域にあることに興味・関心を持ったようです。また、日本最大の内戦の悲惨さも感じていた様子でした。次回は、日本史選択の2年生を対象に、授業で発掘調査成果を学習する予定です。

今後も、調査成果を活用した遺跡見学や授業支援を行い、鹿児島島の未来を担う児童・生徒の郷土愛の育成を図っていききたいと思います。



【堡塁跡を見学する様子】

■ 埋蔵文化財センターでの職場体験学習

（霧島市立舞鶴中学校）

5月22日（水）から5月24日（金）までの3日間、霧島市立舞鶴中学校の3年生5名が当センターで職場体験学習を行いました。

3日間で、土器の注記・接合・拓本等の整理作業を体験しました。加えて、今年度はパソコンを使ったデジタルトレースにも挑戦し、最新の技術

に触れる機会となりました。生徒たちは、職員や作業員の指示や説明をよく聞き、整理作業に積極的に取り組んでいました。また、あいさつもしっかりできていました。

この3日間の職場体験を通して、生徒たちは働くことの大切さや楽しさを味わうことができたようです。また、本物の土器や石器に触れることで、埋蔵文化財への理解を深めることができました。

今後も、このような活動を通して、生徒たちが身近な歴史や遺跡について興味・関心を持ってもらえたらと考えています。



【土器の拓本に挑戦する様子】

■ 遺物資料や「まいぶんキット」を活用した授業と火起こし体験

（日置市立和田小学校）

5月29日（水）の5校時に学校の近くにある遺跡について学習しました。6校時には火起こし体験に挑戦しました。どの児童も初めての経験でしたが、指導を受けながら、とてもスムーズに火を起すことができました。激しく火が燃え上がると、「わあっ！すごい！」と歓声が上がりました。

また後日には、「まいぶんキット」を使って、土器を観察したり、縄文土器と同じ文様をつける体験活動を行いました。縄文土器の複雑な文様が、子どもたちにとっては意外な方法で施されることに感心しきりの様子でした。

素晴らしい遺跡が、学校のすぐ近くにあることを知り、当時の遺物観察や火起こし体験をとおして、和田地域の歴史や文化財にとっても興味や関心を持ってもらうことができたと思います。

【火起こし体験の様子】

